

病は知から

胃がん

日本では死亡者数第2位の胃がん。初期の胃がんには自覚症状はほとんどありません。早期発見のために健康診断やがん検診を定期的に受けましょう。

「胃がん」って、どんな病気？

治る人が増えてきた



かかる人が依然として多い胃がんですが、死亡率は低下。つまり、治る人が多くなってきたということです。

ピロリ菌が大きなリスク要因



胃がんの発生には、多くの場合ピロリ菌が関係しています。感染していることが分かったら、除菌治療を受けましょう。

野菜・果物を食べよう



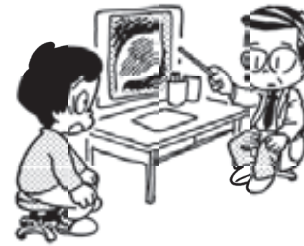
野菜・果物をあまり食べないと、胃がんの発生率は高くなります。ただし、漬物には塩分が多いので気を付けて。

日本人に多い



日本は胃がんにかかる人が多い国。東北地方の日本海側で多く、南九州や沖縄で少ない「東高西低」といわれます。

早期には症状がないことが多い



胃がんは検診で見つかるケースが多いです。早期発見のため、40歳を過ぎたら定期的に検診を受けましょう！

たばこと塩分にも注意



たばこを吸うと、胃がんにかかるリスクが確実に高くなります。また、塩分の多い食事にも注意が必要です。

ベストな選択で患者さんにやさしく 生活の質(QOL)を重視する 「胃がん」の治療

治療中や治療後の患者さんの生活も重視して選択される胃がんの治療。今年5月に上部消化管外科の主任教授に就任した篠原先生に話を聞きました。



体への負担が少ない治療に積極的に取り組んでいます

迷ったときは患者さんの立場に立つ、が基本です

上部消化管外科
篠原尚 主任教授

早期の胃がんの場合、がんが胃のいちばん内側の粘膜層に留まっているなら、内視鏡による内科的な治療が可能です。それより深くまで達しているものや、リンパ節への転移が疑われる進行がんの場合には、胃を切除する外科手術や化学療法などを選択します。

重視しているのは、患者さんの体への負担をいかに少なくするかということ。そのため、外科に紹介されてきた患者さんでも、内科の先生と相談して内視鏡治療の可能性を検討することもあります。

い手術を行っていききたいと考えています。

小さなことですが、私は手術当日、術前の患者さんにできる限りお会いして直接お顔を拝見するように心がけています。また、治療の方法を迷うときには、自分ならどちらの治療を受けたいかを考えます。最近が良い抗がん剤が出てきており、手術ができないと判断された患者さんが、抗がん剤治療で手術できる状態になった事例もあります。患者さんやご家族とともに、あきらめずに治療を続けることも大切だと思っています。

兵庫医科大学病院は、内科と外科をはじめ他部署との連携が非常に良いと感じています。内視鏡や腹腔鏡だけでなく、各分野で技術が高く、設備も充実しています。地域の方々に信頼される施設であり続けるためにも、今後ますます研鑽を積んでいきたいと思っています。